

健康教育

- ☆ 心身ともにたくましい並木っ子
—めあてにむかって 仲よく挑戦— 小林徳之助…………… 2
- ☆ 太陽に向かう子ども
—自らのからだと心で主体的に行動できる子ども— 北尾素一 …………… 7
- ☆ “小さな学校の大きな活動。”をめざした健康教育 大崎武晴 …………… 12

昭和60年度健康優良学校 全国特別優秀校

〈朝日新聞社提供〉

昭和60年度 全日本健康優良学校表彰式

主催：朝日新聞社 後援：文部省・厚生省



No. 97

心身ともにたくましい並木っ子

—めあてにむかって 仲よく挑戦—



埼玉県川口市立並木小学校

校長 小林 徳之助

1. はじめに

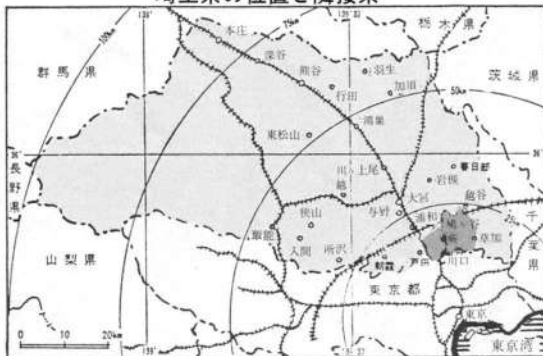
本校は、市街地校特有の虚弱児（肥満・るい瘦児）問題の解消をめざし、体力づくりの研究実践を契機に、これまで、積極的な保健指導、健康教育の充実推進に努めてきた。

最初は、心身の健やかな児童の指導から取り組んだ。次に、体力向上の研究に取り組み、「心身ともにたくましい並木っ子の育成」に力点をおいてきた。そして、その後は、体力づくりを中核とした体の健康・心の健康づくりを推進、健康の自己管理能力を育成する、具体的な実践を続けてきた。また、現在は、それらを基礎に、児童各自が「めあてにむかって挑戦」する生活の確立＝健康で健全な基本的生活態度の育成により、児童の自己実現達成指導をめざしている。

2. 地域・学校の概況

川口市は東京と荒川を挟んで接する、埼玉県の南端

埼玉県の位置と隣接県



秋季運動会

にある人口40万の工業都市で、鋳物・機械工業、植木花等生産が中心産業である。

並木小の校区は、京浜東北線西川口東口四町会である。駅周辺には歓楽街があり、また川口・戸田の公営レース開催時には、町の様子が大きく変わる。そして、児童の遊び場が殆んどないうえ、校地（運動場）も狭く、好ましい教育環境といえない状況である。

本校は昭和29年に児童283名で開校、その後都市化が進み、現在は、22学級、児童数830名、教職員29名の規模となっている。

昭和53年からの体力づくり研究指定（市・県・文部省）、その後も引き続いて現在まで（昭57～60）体力づくり・健康教育の研究を続け、自主発表を行ってきた。

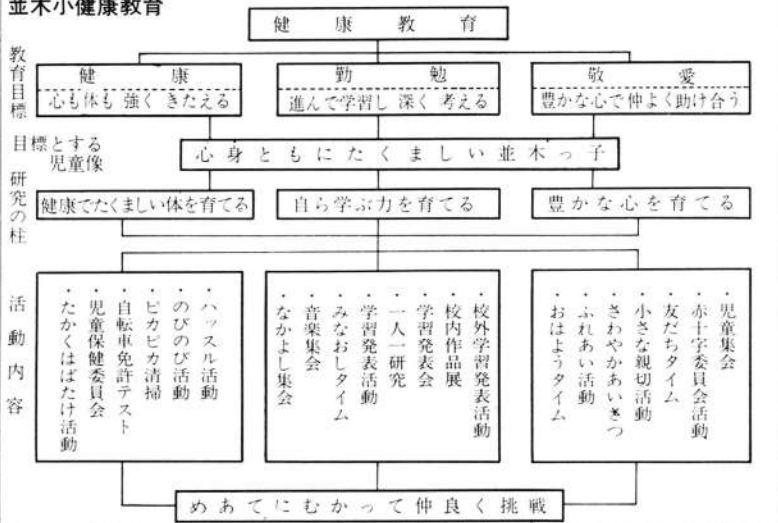
3. 教育目標と健康教育

本校は健康教育を中核に、人間性豊かな実践力のあ

学校教育目標

- ◎ 健康・勤勉・敬愛を目標の基本とし、人間性豊かな実践力のあるたくましい児童を育成する。
- ◎ 校訓 **健康・勤勉・敬愛**
- ◎ 児童像 **心身ともにたくましい並木っ子**

並木小健康教育



るたくましい児童の育成をめざし、教科等全領域を基礎とする全校的活動の展開により、学校教育目標の具現化、達成に努めている。

4. 児童の特性を育てる並木っ子諸活動

並木っ子諸活動

◇健康でたくましい並木っ子を育てる活動

- 1 たかくはばたけ活動
 - (1) 健康観察板、体格判定盤（自己管理）
 - (2) 正しい姿勢 背のび運動、一分間
 - (3) 歯みがきタイム（給食後）
 - (4) 楽しい給食
 - (5) 遠方凝視、視力測定
 - (6) うす着の習慣
- 2 のびのび活動
 - (1) さわやかタイム（業前）
 - めあてをもって運動
 - (2) 並木っ子タイム（業間）
 - 並木っ子体操 ○5分間走
 - 並木っ子行進 ○フォークダンス
 - (3) のびのびタイム（課外）
 - 遊具施設を使っている活動
 - 動く遊具（一輪車、ころがしタイヤ）での活動
- 3 ハッスル活動
 - (1) チャンピオン大会（水泳、なわとび、陸上、マラソン）
 - (2) 検定会（水泳・なわとび・鉄棒・マット・跳び箱運動）

◇自ら学ぶ力を育てる活動

- 1 なかよし集会
（七夕集会・もちつき集会・給食集会）
- 2 音楽集会（第3土曜日）
- 3 みなおしタイム（算数・国語）
- 4 学習発表活動（教科、クラブ等）
- 5 校外学習発表活動（公开展等）

◇健康でゆたかな心を育てる活動

- 1 ふれあい活動
 - (1) ようこそ一年生（歓迎会）
 - (2) 手つなぎ遠足（1・6年）
 - (3) グリーンランチタイム（ふれあい広場）
 - (4) 6年生を送る会
- 2 友だちタイム
 - (1) 歌は友だち
 - プラスバンド部
 - 白百合合唱団
 - 並木っ子パレード（鼓笛、プラスバンド）
 - (2) 絵は友だち
 - 絵いっばい活動 ○並木ギャラリー学習
 - (3) 花は友だち
 - 並木ガーデン（学級・学年）
 - みんなで咲かせよう（一人一鉢栽培活動）
- 3 児童集会（毎週木曜日）

児童にとって、学校が楽しい場であり、課題に熱中挑戦し、自分の特性を発見伸長できる所となるよう、多様な活動を計画、推進している。

5. 基本的生活態度の確立指導

健康教育の基本として、健康づくり「並木っ子ノート」をもとに、心身ともに健康で健全な基本的生活の確立をめざしている。

一日の生活リズム（日課）指導の徹底、保健衛生的習慣の定着を図り、特に、心の健康づくり指導の基礎として、児童が自分のめあてにむかって熱中する、積極的な生活行動の育成に努めている。

6. 健康づくり推進の環境整備

児童に働きかけて活動を誘発し、特性の発見伸長できる環境づくりをめざしてきた。

(1) 体力・健康づくり諸施設

体育活動の活発化をめざして校庭に遊具を増設、また、保健活動の充実のため、諸施設の整備充実を図っている。

① 体力向上のための遊具（固定）

施設、動く遊具を充実整備した結果、児童の筋力が強まり、活動が著しく活発になっている。

② 一輪車・竹馬等の遊具により、運動への意欲的な参加熱中で、平衡感覚の充実に成果が見られ、児童の生活態度も、いきいきたくましさが増してきている。

③ 健康観察板、体格判定盤（バランスのよい体格づくり）健康づくり広場等の設置で基本的生活習慣の定着、健康の自己管理への関心意識が強くなっている。

(2) 心の健康づくりの諸施設

健康で豊かな心、思いやりのあるやさしい心を育てる、並木



さわやかな空気の下で元気いっぱい
遊具で遊ぶ並木っ子



花を見ながらグリーンランチ

っ子諸活動に役立つ諸施設を充実整備し、活動の活発化を図っている。

- ① 情操、感性を充実し、豊かな心の基礎づくりとして、鼓笛・金管バンド・コーラス等の音楽活動や、並木ギャラリー、掲施設の充実により、表現・鑑賞力が向上してきている。
- ② 中庭の環境緑化、学年用花壇の整備により、花咲かそう活動（一人一鉢栽培等）を展開、自然への関心、取り組み姿勢、行動力が育ってきている。
- ③ 教育・健康相談室を特設し、心身に問題をもつ子の不安・悩みの解消をめざして、早期相談、適切な措置のとれるよう活用、指導に活かしている。



並木っ子鼓笛演奏パレード

(1) 体力づくり活動

もやしっ子（虚弱児）をなくし、たくましい並木っ子の育成を目標に、指定研究以降も、体力向上の自主研究を続けている。

- ① 業間運動並木っ子体操を考案（筋力・柔軟性強化）全校活動として実践（毎週火・木曜日）を続けている。
- ② 動く遊具（竹馬・ころがしタイヤ・一輪車）の



正しい姿勢をつくる
「姿勢コーナー」

バランスのよい
体格づくり

7. 体の健康づくり活動

体力づくり研究実践を健康教育の中心にして、積極的な取り組みを行っている。



全校90%のブリッジ（並木っ子体操）



地面までつけよう開脚運動

整備は、外遊び奨励と平衡感覚の養成が目標であったが、その魅力にひかれて、朝寝坊・登校拒否児童が真先に登校するような変容もできています。

- ③ 業後に、学年別体育活動を計画的に実践し、楽しい体育活動の実現をめざしている。
- ④ 業後運動のチャンピオン大会（なわとび）では、自己記録の伸長、体育技能の向上をめざし、好結果（記録更新）を得ている。

(2) 健康づくり諸活動

積極的な保健・安全諸活動（たかくはばたけ活動等）の充実活発化を図り、健康の基本的習慣の定着徹底によって、健康の自己管理力の育成に努めている。

たかくはばたけ活動

た	ただしい姿勢	背のび運動
か	体をきたえる	うす着の習慣
く	クラスそろって	健康観察
は	歯みがきしよう	3、3、3
ば	バランスのよい	体格づくり
た	たのしい給食	残さず食べよう
け	健康なひとみ	サン 0 2

- ① 健康観察板（学級、個人別）に、登校直後自分の体調を磁石で示すことにより、健康への意識化、習慣化をめざしている。
- ② バランスのよい体格づくり施設（身長・体重・判定盤）を活用し、関心をもたせ、意識化、習慣の定着を図っている。
- ③ 正しい姿勢づくりには、背のび運動や姿勢づくりペンダントを活用し、また、姿勢づくりコーナーで正しい姿勢への注意、意識化指導に力を入れている。
- ④ 健康づくり広場を設置し、肥満児指導や柔軟体



真剣な眼差しで自転車免許テスト

操のほか、学級会活動等ふれあい活動の充実伸長を推進している。

- ⑤ 交通安全の徹底強化をめざし、自転車免許テストを実施、指導の充実を図っている。

8. 心の健康づくり活動

健康で豊かな心の育成をめざして、多様な児童（並木っ子）活動を積極的に推進し、目標の達成に努めている。

(1) 情操教育の充実指導

健康の基礎づくりに、情操教育の充実を図っている。

- ① 夢のある楽しい集会活動（鯉のぼり・七夕・餅つき・ひな祭り集会等）により、表現、発表力を養い、協調してふれあい活動をする、実践力を育成している。



楽しいもちつき集会（児童会・学級・PTA共催）

- ② 鼓笛・金管バンドの演奏やパレードの展開により、豊かな感性、情操を育て、また、技能、達成感の経験から、自信にまで高めさせている。

③ 並木ギャラリーや掲示等により、美術工芸等の美しさを知り、豊かな感性、生活づくりの指導に努めている。

④ 一人一鉢栽培（花咲かそう）活動等により、自然愛の心の育成に力を入れている。

(2) 心身に問題をもつ子の指導

心身に問題をもつ子に対し、日常生活における基本的生活内容を充実する指導、そして、問題をもつ子の個別指導の深化充実を推進している。

① 健康づくり「並木っ子ノート」をもとに、めあてにむかって挑戦する基本的生活態度の指導により、特性を発見伸長させ、たくましい心身の育成に努めている。

② 教育・健康相談に力点を置き、問題の分析、検討等、指導の深化推進に活かしている。

(3) 奉仕・慰問等の活動指導

やさしい思いやりの心（社会奉仕、慰問等）を具体的活動体験により育てている。

① 地域ゴミゼロ活動により、住みよい街づくりの心を育成している。

② 老人ホームの慰問やアフリカ饑餓救済募金活動を、青少年赤十字活動の一環として推進、他者への支援、救済に力を尽くす、暖かい思いの心を育てている。

9. PTA・地域との連携活動

熱心な協力後援活動で、PTA・地域の人々の力が、健康教育を支える強い教育力となっている。

PTAのバザーは、額に汗して働く父母の姿が、児童に奉仕活動の大切さを知らせる無言の教育となって



老人ホームでのふれあいを深める交流会



地域をきれいにゴミゼロ活動

おり、その収益金で学校諸施設が整備充実されている。また校内の環境整備（樹木の整枝・遊具の塗装等）や児童諸活動を側面から援助している。

① 体力づくりノート、健康ノートによる、家族揃っての健康づくり活動（なわとび・柔軟体操・歯みがき・おやつのかき方）等で、熱心に協力している。

② 学校が推進する青少年活動（奉仕・募金慰問等）に、一体となって協力後援しており、そのほか、並木っ子諸活動（林間学園、餅つき集会等）に、強力な後援を行っている。



正しいみがき方でむし菌予防

10. おわりに

これまでの教育実践で本校は、初期にみられた「もやしっ子」は姿を消し、生き生き、たくましい並木っ子が育ってきている。そして、各方面の方々から、並木小には「勢いを感じる」、「活力がある」と言われるまでに変容してきている。今後は、これまでめざしてきた指導内容の徹底定着化が課題である。

太陽に向かう子ども

—自らのからだと心で主体的に
行動できる子ども—



正門から玄関へ



京都府京都市立有濟小学校

校長 北 尾 素 一

1. はじめに

今日、学校に求められているものは、人間性豊かな児童を育てる実践であり、積極的な健康や体力の維持増進と共に、主体性の確立、創造性の開発、連帯性の涵養をはかる具体的な実践活動である。教育は言うまでもなく実践であり、育つべきときに育つべきものを育てる実践こそ今日の教育の最大の課題である。

本校では地域実態、学校実態に照応して健康教育を推進して10年になる。今日の健康教育は単なる体力づくり、保健の充実だけの問題ではなく、学校教育活動そのものである。

従って、あらゆる学校教育活動を通して実践が推進されねばならないと考えている。

2. 校区、学校の概要

京都の代表的な街、祇園を校区に持つ都心部にある

繁華街であり、夜の歓楽街である。従って、交通、騒音、照明（ネオン）公害や日照等の環境問題をはじめ、校区には公園はもとより、遊び場もなく、子どもが育つ環境としては誠にきびしい実態である。

本校は明治2年10月21日に開校された歴史と伝統のある学校である。児童数は昭和31年の974名をピークに年々減少し、昭和60年度は198名（7学級）となっている。

本校は同和地区を含む学校であり、同和問題の解決をめざして長年同和教育の推進を重点課題として取り組んでいる。また、福祉対策地域を対象とした福祉対策なり、福祉教育を推進している。京都市における都心部の繁華街というだけでなく、学校として多くの今日的な課題解決をめざした多様な実践活動をすすめている。

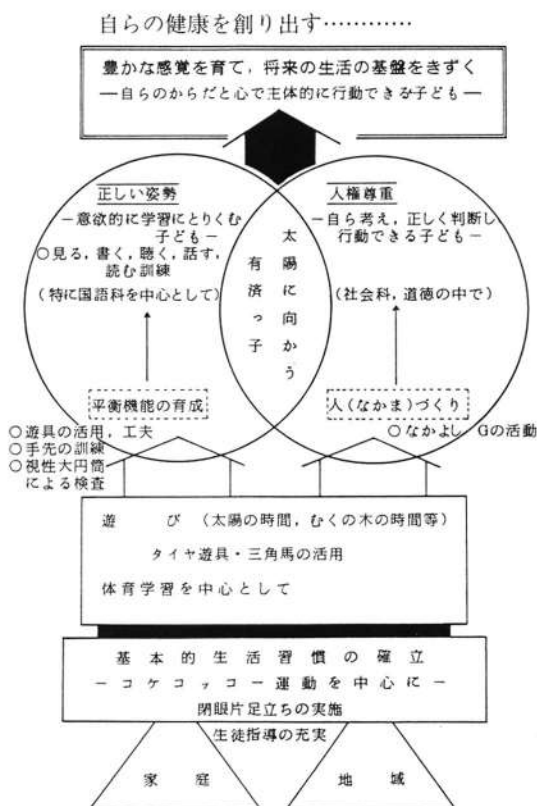
3. 学校教育目標と特色ある教育活動

教育の今日的課題、地域実態、学校実態に照応して、人間尊重を軸として人権尊重の基本的な考え方を育て、たくましく豊かな人間性と、主体的な行動ができる子

ども（自分で考え、正しく判断し、行動できる子ども）の育成をめざしている。具体的な目標として次の3つの目標を掲げている。

- 力いっぱい学習する子
- だれとも仲よくする子
- きまりをしっかりと守る子

(1) 研究推進の構想



校庭より太鼓楼兼望楼を望む
(明治9年につくられ、当時、時刻を知らせた。
明治の重要建築物である。)

(2) 学校保健計画

本年度の重点目標 「みずからの健康を創る子どもを育てる」

1. 健康観察の徹底
2. 基本的な生活習慣の育成
 - ◎ コケッココー運動の推進
 - ・コケッココーデーの設定(毎月0と5のつく日)
 - ・テレビを見ない、早ね、早おき・生活調査の実施
 - ◎ 平衡機能の育成
3. 保健指導の充実、徹底
 - ・保健デー・毎月第1土曜日4校時 (レポートの保健指導)
 - ・月1時間の学級指導 (特設の保健指導)
 - ・保健日より「すこやか」の発行 (保健デー、コケッココーデー)
4. 保健学習の充実、徹底
 - ・5、6年対象
5. う歯予防の管理と指導
 - ・歯の健康に対する保健指導
 - ・歯垢染めだしによる 歯みがき指導
 - ・カリオスタットによる う蝕活動性試験
 - ・給食後の全校歯みがきの実施
 - ・歯みがきカレンダー
 - ・食事、おやつ指導
 - ・治療の徹底(治療率100%をめざして)
 - ・個別指導の充実、徹底
6. 疾病異常児童の管理と指導
 - ◎ 視力異常対策
 - ・予防 (むくの木の間での遠望視)
 - ・視力異常児童 (保健指導)
 - ◎ 肥満対策
 - ・食事、おやつ、生活指導
7. けがの防止
 - ・環境整備
 - ・安全な行動と適確な判断の指導
 - ・受傷時の取りあつかいと指導
 - ・救急カードの整備
 - ・傷病カルタの活用
8. 健康相談
 - ・学期1回以上
9. 体力づくり
 - ・むくの木の間(業間体育)、太陽の時間(遊び)
 - ・タイヤ道具の活用
10. 学校保健委員会
 - ・年間5回
11. 地域社会との連携
 - ・家庭訪問
 - ・保健所、福祉事務所、関係医療機関との連携

(3) 基本的な生活習慣の育成

—生活リズムの確立—

「コケッココー運動」を提唱し、健康に対する関心や意欲を高め、主体的に行動できる子どもの育成をめざし、学校、家庭、地域ぐるみの取り組みをすすめている。

(ア) ねらい

児童が活気あふれる充実した一日を過ごすためには、朝から目も頭も覚ますことから始めねばならないことを自覚させる。

(イ) 実施日 月6回、5と0のつく日

(ウ) 内容

- よく遊ぶ
太陽の時間、むくの木の間(毎日の業間体育)、なかまの時間の運動の徹底
- テレビは見ない(コケッココーデー)。常にテレビ視聴について考えさせる。(番組の選択、見方)
- 間食はしない。
遠足、修学旅行、野外教育キャンプ等においても一切おやつは持参しない。
- 10分早く起きる。

「早く起きるためには早く寝ることだ」「早く寝るためにはしっかり体を動かし、汗をかくことだ」という基本的な生活習慣の大切さを体験を通して自覚させたいのである。早寝、早起きが快く自然にできる体づくり、家庭環境づくりへの努力が子ども達の学校生活を支えていく基盤ともなる。



コケッココーの標示
(児童保健安全委員による)

(4) 体づくり

—平衡機能の育成から—

今日の学校保健の重要な課題の一つに平衡機能の育成がある。

(ア) タイヤ遊具の開発と活用

現在、本校には約 450 本余りの大小様々のタイヤ



転がるタイヤ

を組み合わせた手づくりの遊具がある。この開発のねらいは「遊び」からの出発であり、遊びを通した自然運動による平衡機能の育成をめざしたものである。特に、「転がる」、「はずむ」等のタイヤの特性を生かし、「めまい」や模倣といった遊びの要素が最大限に発揮できる条件の設定を考えたものである。



いろいろなタイヤ遊具

タイヤ遊びの例



(イ) 三角馬(トライバランス)

京都の銘木北山杉の除伐材を利用したものである。軽くて丈夫であり、この遊具は動きとして自然であ

り、全身運動に適している。遊びの方法、内容は10数種類に及んでいる。特に、平衡感覚を中心とした調整力、筋力が養われることや土ふまずの形成と共に、つまさきの刺激から脳などの神経系を刺激し、その発達を促進している。



三角馬遊び

(5) 遊びを通した業間体育

本校のシンボルである樹令250年にもなる「むくの木」にちなんで名づけた「むくの木の間」という業間体育である。10年間常時活動として続けられてきた意義は大きい。むくの木の間をめざすものは、

(ア) 体づくり

- (イ) 集団の場で伸び伸びとした動きを引きだす。
- (ウ) 伸び伸びと動くことの自由さと楽しさを味わう。
- (エ) 遊びや社会生活への広がりや充実をはかる。
- (オ) 一日の生活の流れに変化と潤いを持たせる。
- (カ) 学年間のたてのつながり、学年内のよこのつながりのよさを生かして、遊びを通した豊かな人間関係を深める。
- (キ) 教師と子どものふれあいを通して児童理解を深める（遊ぶ生徒指導）



むくの木の間
(たてわりグループによる)

等、遊びを通した業間体育であり、教師の指導よりも児童が主体的に取り組み、遊びの内容、すすめ方などリーダーを中心として、たてわりグループで考え実践している。

また、このむくの木の間「なかよしグループ」(たてのつながり)の活動を生かし、集会活動、野外活動、栽培活動、遠足等多様な取り組みへと拡充、発展させている。

以上、これらの活動を通して、児童自らが遊びを創造し、遊びを通して自主性や仲間意識が育ってきている。そして大切なことは児童が遊びの中でルールをつくっていることで、そこには自然に人間関係が深められ、豊かな心が育てられているのである。遊び場がないという本校の地域実態から、教職員の創意工夫を生かし、遊具の開発、運動場の開放、手づくりの教育環境づくり等の条件整備を行い実践している。

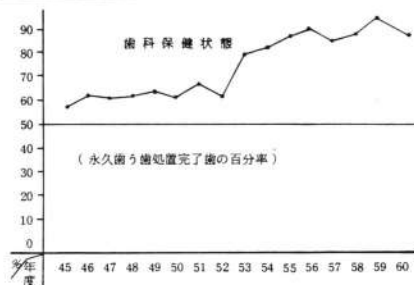
(6) 歯科保健活動

学校保健計画の「う歯予防の管理と指導」に重点項目を挙げている。

本校のう歯の罹患状況

昭和60年度 歯科検診集計表

	検査人員	う歯 所有人員	永 久 歯		う 歯	
			所有人員	処置済人員	所有歯数	処置済歯数
人 員	198人	179人	101人	73人	320本	284本
百 分 率		90.4%		72.3%		88.8%

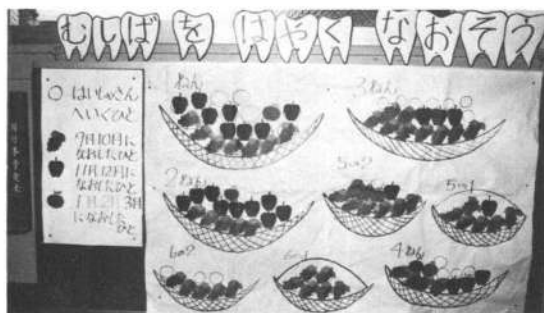


う 歯 (永 久 歯) 治 療 率

年度	検 査 人 数	④永久歯の歯総数	⑤処置完了歯数	⑤/④×100
43	419	625	430	59.1%
44	399	608	368	60.5
45	394	612	346	56.5
46	393	601	367	61.1
47	366	615	371	60.3
48	358	620	381	61.4
49	333	619	386	62.3
50	327	610	372	61.0
51	314	626	412	65.8
52	310	533	323	60.6
53	322	549	435	79.2
54	300	501	408	81.4
55	293	465	399	85.8
56	298	524	472	90.1
57	275	560	456	81.4
58	253	457	404	88.4
59	220	376	352	93.6
60	198	320	284	88.8

昭和53年、54年度文部省指定のむし歯予防推進指定校となる。昭和57年学校歯科保健奥村賞（努力賞）受賞、昭和59年学校歯科保健特別賞、昭和60年第2回京都府歯科保健文化賞（京都府歯科医師会）受賞。

児童のう歯予防に対する自覚も高まり、学校、家庭、歯科医の連携と協力により大きな成果をあげている。



う歯治療のようす

(7) その他の特徴的な教育活動

紙面の関係上、生活リズムの確立、業間体育、平衡機能の育成（タイヤ遊具の開発と活用）等について述べたが、その他の活動について項目のみ挙げておきたい。

- (ア) 学校保健委員会の活動
- (イ) 全校児童集会活動（毎週月曜日、音楽、運動、安全、保健、お話、読書等の集会）
- (ウ) 有済農園における栽培学習
- (エ) 一鉢運動（植物栽培）
- (オ) 手づくりによる学校環境づくり（観察池、造形遊び砂場、動物村、自然観察園等）
- (ウ) 三重県奥志摩における野外教育キャンプ（5、6年2泊3日）
- (キ) 耐寒マラソンとぜんざい大会



七夕音楽会



親と子と教師の集い（全校）

- (ク) 親と子と教師の集い（各学年毎、体育的、文化的内容、話し合い等）
- (ケ) スポーツ教室（柔道、バスケット、バレー、卓球、ソフトボール等）
- (コ) 平衡機能検査と生活実態
 - ・ 視性大円筒による。
 - ・ 開眼片足立ち（飛行機型）による。
- (サ) フリッカーテストと生活実態等、以下略。



視性大円筒による平衡機能検査
（足踏み検査）

4. 今後の課題

前述のように、今日の健康教育は学校教育活動そのものであるという認識を更に深めながら、あらゆる学校教育活動についての点検と充実を図らねばならない。今、子どもをどう育てるのか、体づくりをどうするのか、生涯にわたっての健康で安全に生きぬく子どもの育成はどうあるべきか、学校、家庭、地域社会のそれぞれの立場で考え、現状を見直すとともにその責任を果たすべきである。特に、学校が先導的役割を果たすことが家庭、地域への運動を強化することになると考えている。

“小さな学校の大きな活動、をめざした 健康教育



30 人の子ども達



島根県浜田市立宇野小学校

校長 大崎 武 晴

1. 学校の概況

浜田市漁業の町からバスで25分、緑豊かな自然環境に恵まれた山あいの静かな農村地帯。児童数30名、教員6名。複式3学級の極小規模校、開校108年の歴史と、築後75年を経過している一部二階の木造校舎は、“閑雅枯淡の美”のおもむきを呈している。校庭は一周80mのトラックと、その周辺に、体力づくり運動の手づくりの施設がとり囲むように配備してある小さな学校である。

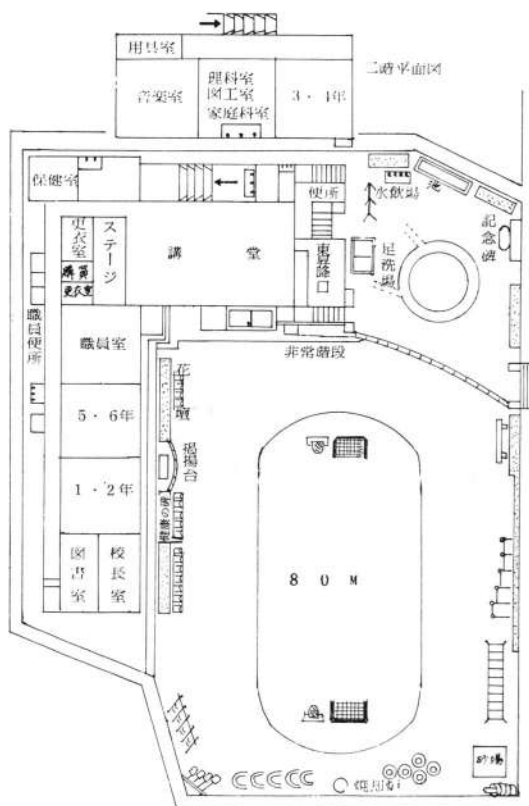
2. 本校の健康教育のねらい

とかく、小規模校少人数の学校となると、活力に乏しく、積極性にかけ、無気力、無感動、無表情で、迫力のない学校、子ども達をよく見かける。本校の場合もその例外ではなかった。その上学校環境や諸施設も老朽化し、地域も過疎化傾向である。

この現状を、何とか“活力のある学校”、“やる気”のある子どもに育てるためにはどうすればよいか。着任後、職員、PTAに強く呼びかけ、小規模校の特性を見直し、その特性を利点とする学校づくりに着手した。

まず、児童の発意、発想をとりあげ、PTA・地域の人々にも本校の教育課題について理解と協力を強く

校舎配置図



求め、宇野小教育の改革改善を図った。

教育は、教師の教育力、創造と活力ある教育指導によってなされるものとして、「小さな学校 大きな活動」をめざす健康教育即全人教育として出発した。

- ・ つよい宇野っ子
- ・ くふうする宇野っ子
- ・ たすけあう宇野っ子

に育てる。



3. 教育目標

(1) めざす健康な学校像

教師自らが、豊かで健康な心と体を持ち、子どものよろこび(感動)は教師のよろこび(共感)となる活動を重視し、子どもひとり一人を見つめ、たしかめながら、心・体・頭の健康な子・健康な学校とする。

(2) めざす健康な児童像

- ① 思いやりのある豊かな心を持ち、たすけあう子 (心の健康)
- ② 根気強く、がんばりとおす強い子 (体の健康)
- ③ 本気で勉強し、くふうする子 (頭の健康)

(3) めざす健康な家庭像

- ① 健康第一 家族ぐるみの「攻の保健活動」(特に、食事、視力、歯の管理)
- ② 子どもの心を大切にする。
あいさつ、話しあいを通して、子どもを知り、心を育てる。
- ③ 勤労体験を尊重する。
家事の分担とボランティア活動の推進を地域ぐるみではかる。

4. 健康教育の基本的な構え

(1) 健康観の確立



築後75年の校舎

教師、児童、保護者に、機会ある毎に、真の健康について、WHOの健康観と教育基本法の教育の目的による健康な教育の推進について理解を求め、健康教育の基盤となる学校保健委員会へと発展させる。

(2) 指導機関の協力体制の確立

三師会、市当局、市教委の強力な協力と指導をうけ、本町自治会の代表者も参画し、地域ぐるみ、町ぐるみの実践活動にする。



健康を自分で
たしかめる

5. 健康教育実践の三年間の概要

(1) 一年次——心の健康づくり

小学校教育の基盤は、集団生活への適応化と集団での個の確立をはかることではなからうか。そのためにはつぎのことを指導の柱として実践した。

○ 生活の基本を正す。健康な生活習慣を定着化させ、学校生活への構えをつくることである。そのことを本校では、心の健康づくりとしてきた。

- ① あいさつ(おはよう・こんにちは)が気軽に、しかも、大きな声で、人より先にできる。
- ② はきものを、きちんとそろえる。
- ③ だまって、そうじをする。

物を大切にする。

古い校舎を美しく磨きあげ、若返らせる。

①は、礼儀正しさと好ましい人間関係を育てる。②は、自立心や主体性のある人間、個の確立をはかる。

③は、物のありがたさ、価値についてわからせ、体を通して感謝と物の大切さを体感させる。

このことは、常時、学校・家庭を問わず、どの児童も、そして教師も親も家族全員が毎日しなくてはならない生活行動である。

その場、その時に評価、たしかめあうことができる。

この三つの生活の基本行動を通して、心の健康づくりとして毎日実践させてきた。このことが身につくことによって、生活や学習活動に構えができ、意欲的なやる気の学校となってきた。

(2) 二年次——体・頭の健康づくり

意欲的、やる気ができれば、つぎはなかみの教育である。形をつくり内面化をはかる、知的、身体的な健康づくりである。

極小規模校の特性を生かす。特性を利点とする教育活動として、ただ学級内だけの活動で終わるのでなく、発展的な活動として広く活動する場、発表する場をつくり、切磋琢磨する場として活動意欲を高め、表現力の豊かさをねらうことにした。

学級内活動から全校活動、全校発表活動の時間を多く特設した。その時間はゆとりの時間の活用、宇野小

タイムである。この宇野小タイムは指導計画にそって各学年の枠をはずし、全校児童、教師も生活活動編成により四グループに編成し、上学年、下学年の相互補完の活動、助けあいの活動、創意工夫する活動として実施してきた。この活動を通して、児童の能力、特技の開発になり、教師は特技、特能によりすぐれた指導技術や指導のポイントを修得、研修する場にもなり、本校の個性的な活動、特色的な活動として展開した。この活動によって、児童も教師も共に学び、共に育つ活動として生き生きとした構えができてきた。

この活動によって児童の表現力が豊かになり、活動が積極的に活力ある表現活動となり、全校が躍動感を覚えるようになってきた。

知、徳、体の調和と活力ある全人教育・健康教育である。



体操チャンピオン

宇野小ふれあいタイム年間計画

月	テーマ	活動内容
4	なかまづくり	学校や学級のなかまづくりと活動の計画
5	さつまいもづくり	班編成と畑づくり
6	たのしい体育祭	陸上・体操のチャンピオン大会
7	七夕まつり	祭りと思い
8	たのしいキャンプ	協力して楽しい野外活動
9	自慢大会	一人一研究発表
10	収穫祭	さつまいもほりと感謝祭
11	ふるさと学習 読書祭	手づくり工作や宇野の歴史、 お話と朗読
12	うでくらべ・のどくらべ大会	歌唱や器楽演奏を中心とした楽しい発表会
1	かるた会とたこあげ	親子かるたづくり・たこあげ
2	卓球となわとび	全校卓球大会となわとび大会
3	お別れ会	卒業生をおくる

(3) 三年次——知・徳・体の調和と活力ある健康教育

「小さな学校の大きな活動」

生活、学習の基礎、基本を正し、やる気のある子どもづくりをする。健康教育は、校長はじめ全教員、PTAが一体となって、健康な活力ある学校づくりをすることである。

まず、教師・児童・PTAの組織活動の充実と活発化をはかること、ひとり一人が健康教育、本校の現状を深く認識してどう改革し、どう改善するかが第一である。たえず創造することによって新たな課題が生まれ、その課題をどう解決していくかを考える姿勢が大切。「日新・日々新」なりである。

三年間の歩みをまとめる年として、教育の調和と活力ある大きな活動する学校として出発した。

はからずも昨年9月21日、全日本健康優良学校表彰会より中央実施審査をうけられる幸運に恵まれた。



勤労体験 いもづくり

学校、家庭、地域あげて謙虚に指導、審査をうける。今日まで歩んできた本校教育の総合評価をうける二度とない機会として、平素の活動をありのまま審査日程、審査内容としてプログラムを組んだ。

中央審査委員の先生は、つぎの方でした。

- 山内太郎先生（新潟大学教授、
東京大学名誉教授）
- 平山宗宏先生（東京大学教授）
- 坂本元子先生（和洋女子大学教授）
- 内田幸男先生（東京女子医科大学教授）

全日本健康優良学校実地審査日程

（60. 9. 21） 島根県浜田市立宇野小学校

順	活 動	時 刻	所要時間	会 場
1	集 団 登 校	7:50		
2	健康のたしかめ	7:50~8:00	10	講売前、校庭
3	おはようタイム	8:00~8:20	20	校庭(講堂)
4	職 員 朝 礼	8:20~8:25	5	職 員 室
5	清 掃	8:30~8:45	15	全 校 内
6	健康観察・学級朝礼	8:50~9:00	10	各 教 室
7	全 校 の 広 場	9:05~9:25	20	講 堂
8	学 習 指 導	9:30~10:15	45	各 教 室
9	できたぞ！タイム	10:15~10:35	15	校庭(講堂)
10	はく・わたしの研究	10:45~11:15	30	講 堂
11	チャンピオン大会	11:25~12:10	45	講 堂
12	昼 食	12:10~12:45	35	各 教 室
13	集 団 下 校	12:50		
14	レクリエーション	12:55~13:15	20	講 堂
15	児童との話し合い	13:20~13:50	30	二 学 級
16	学校保健委員会	14:00~14:50	50	講 堂
17	保護者との話し合い	15:00~15:40	40	三 学 級
18	保健主事・養護教諭 との話し合い	15:00~16:25	85	保 健 室
19	教師との話し合い	15:45~16:25	40	三 学 級

〔年報〕健康優良学校（朝日新聞社）につぎのように講評されていた。

〔山内太郎先生評〕

……、まず思い起こされるのは、児童数30名極小規模の宇野小（島根）で、児童みなが生き生きと躍動、どの場面でも自信をもって発言し行動していたことである。児童がこのように変ってきたのはまだごく最近のことというが、かつての日本一原井小の保健主事であった現校長が二年前に着任、「小さな学校の大きな活動」を目指して健康教育を本格した、その直接の成果とみてまず間違いはあるまい。その要は、一貫して児童の発意を尊重し、児童の見つけた活動を大きく育てようとしたことであり、同時に児童ひとり一人の表現力（知的、身体的、心的）の個別的、集団的指導に集中して力を注いだことにあるという。……

大変身にあまる講評をうけ恐縮している。

誰もが、本校教育に深い理解と協力をしていただいた賜と深く感謝している。

教育は、教師の創造的な教育力であり、学校教育を温かく支えていただく地域や、教育関係機関の教育力のおかげだと強く体感するものです。

有難うございました。

今後も、更に、健康教育に創造的で活力をもって精進したいと念じています。

（保健教育・保健管理の実際は略）



できたぞ！タイム



全校給食の一こま

昭和60年度 健康優良学校

大規模校の部（19学級以上）

全国特別優秀校	埼玉県川口市立並木小学校
全国優秀校	愛媛県伊予三島市立三島小学校
全国優秀校	秋田県能代市立第四小学校
全国優秀校	岡山県岡山市立西大寺小学校
全国優秀校	新潟県西蒲原郡弥彦村立弥彦小学校

中規模校の部（7～18学級）

全国特別優秀校	京都府京都市立有濟小学校
全国優秀校	熊本県熊本市立城東小学校
全国優秀校	静岡県湖西市立東小学校
全国優秀校	愛知県稲沢市立清水小学校
全国優秀校	茨城県笠間市立佐城小学校

小規模校の部（6学級以下）

全国特別優秀校	島根県浜田市立宇野小学校
全国優秀校	青森県西津軽郡木造町立出来島小学校
全国優秀校	神奈川県津久井郡津久井町立青野原小学校
全国優秀校	栃木県河内郡上三川町立坂上小学
全国優秀校	石川県輪島市立大倉小学校

育ちざかりの ひと粒！

体力をつけ健康を保つ

歯・骨を丈夫に……



カワイ肝油ドロップ



河合製薬株式会社

東京都中野区新井 2-51-8